

乳腺外科のご案内

日本人の女性のうち **9人に1人が乳がん** にかかる時代です。

女性の乳がん罹患数（乳がんであると診断される人の数）や乳がん罹患リスク（一生のうちに乳がんになる確率）は年々増加の一途をたどっています。

また、40歳から60歳に発見されることが多い乳がんですが、近年は若年性乳がんや高齢者乳がんの患者さんも増え『**何歳でもなりうるがん**』となってきました（※詳しくは裏面をご参照ください）。

一方で、早期に発見・診断し、適切な治療を受ければ、

乳がんは『治る』『治せる』 ことが多い疾患です。

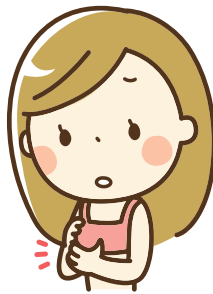
乳房・乳腺に生じる疾患としては良性の疾患も多いのですが、自分自身で良性なのか悪性なのかを判断するのは困難です。今回の検診結果で精密検査が必要と判定された方は、「これって乳がん!？」と一人で悩まず、また周囲の情報に流されず、まずは当院乳腺外科にて専門医にご相談ください。

当院乳腺外科外来のご紹介

当院では、乳腺専門医が、乳房のさまざまな症状（しこり、痛み、分泌など）や乳がんを中心とした乳腺疾患全般に対する診療を行っております。

命も生活も守る 乳がん治療を目指す

乳がんは30代から増え始め、発症のピークは40代後半から50代前半です。家族・社会の中心となる現役世代であり、自分のことになかなか時間をかけられないことも多く、生活のことまで考えた治療やサポートが必要です。



岩本医師 命を救うことが治療の目標ではありませんが、その方が人生で何を大切にしているか、私たち医師がしっかり理解することが、質の高い治療を行うためには欠かせません。命と同じようにこれからの生活も守りたいと考えている方が多く、医療者側のきめ細かい配慮が必要です。これまでの生活を維持しながらどのように治療を行うのか、いつどんな手術を行うのかなど、患者様とよく話し合っ決めていきます。

■乳腺専門医 乳腺外科 医学博士 岩本 美樹

日本外科学会専門医
日本乳癌学会専門医
日本乳癌学会認定医
日本乳がん検診精度管理中央機構 マンモグラフィ読影認定医
日本乳がん検診精度管理中央機構 乳房超音波認定医
緩和ケア研修指導医
がんプロ腫瘍外科学指導医
乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師

■外来担当医表（受付時間 8:00～11:30 / 診療 9:00～）

	月	火	水	木	金	土
午前	診察		診察	診察	検査	検査
午後	検査			検査	検査	

※初診の方、月・水・木曜の午前中にお越しください（事前電話予約をおすすめします）

当院は2021年12月に

一般社団法人日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会

乳房再建実施施設 に認定されました

オンコプラスチックサージャリーとは、がんの根本的な治療（根治性）と乳房のエイアランス（整容性）の両立を目指す乳房手術の考え方のもと、2012年に学会が設立されました。

お問い合わせ

浅草病院

TEL 03-3876-1711（代表）

電話受付 平日 9:00～17:00

土曜 9:00～12:00

休診日 日曜・祝日



乳腺外科

乳がんについて

罹患数と生涯罹患リスク

がん罹患数とは、その年に初めて『がん』であると診断される人の数です。

2022年の予測がん罹患数で、女性 434,900 例のうち 94,400 例が乳がん患者です。これは『がん』と診断される女性の5人に1人は『乳がん』ということを表しています(図①)。

生涯罹患リスクとは、一生のうちにその疾患にかかる確率を表しています。

乳がんの生涯罹患リスクは、2020年では10.6%まで上昇しました。つまり、日本人女性の9人に1人は『乳がん』にかかるということなのです。

死亡数

がん死亡数とは、その年に『がん』が原因で死亡する人の数です。2022年の予測がん死亡数で、女性 161,200 例のうち 15,600 人が乳がんによる死亡数です。

乳がんの死亡数は罹患数の1/6程度です。罹患数では第1位ですが、死亡数では第5位になっています。これは、他の『がん』と比較して女性乳がんの生存率が比較的高いことを表しています(図②)。

早期に発見・診断し、適切な治療を受ければ、乳がんは『治る』『治せる』ことが多い疾患です。

罹患率・罹患年齢

日本女性の乳がん罹患率は、30歳代から増加し始め、40歳代後半でピークをむかえ、50歳代からはほぼ一定に推移し、60歳代後半から次第に減少するといわれています(図③)。

ただし、近年の傾向としては、20・30歳代の若年性乳がんが増加し、70歳代以降の高齢者乳がんも増加しているのが現状です。

受診～診断・治療開始の流れ

